

# 資料1. 論点の整理

---

## 背景～道路空間に求められるニーズ

### 【社会資本整備審議会道路分科会建議（H29.8.22）】

- **道路施策の具体的提案**
- **社会・経済情勢の変化に応じて、自動車の安全かつ円滑な通行が主目的であった道路空間の利活用へのニーズも変化**してきており、民間団体等との連携を強化し、より一層魅力的な道路空間を創造する必要がある。
- **ニーズに応じた道路空間の利活用**
- **安全・快適な歩行空間の確保や賑わいの創出等に資する**、道路外利便施設協定制度を活用した道路と民間所有地との一体的利用等による**道路空間の再構築の促進、制度の充実を図る**必要がある。
- **低速モビリティなど交通手段の多様化への対応**、歩行者や自転車、ベビーカー等の安全で快適な通行空間の確保等のため、**制約条件や交通環境等に応じ、混在も含めた道路空間の再構築を進めるべき**である。
- **バイパス整備とあわせた現道の街並み保全や歩行者空間の創出、道路ネットワーク全体としての道路空間の再構築を検討**する必要がある。

資料：道路・交通イノベーション～「みち」の機能向上・利活用による豊かな暮らしの実現へ～（H29.8.22）抜粋

### 【2040年、道路の景色が変わる（R2.6.18）】

- **道路行政が目指す「持続可能な社会の姿」と「政策の方向性」**  
＜具体イメージ＞
- **様々な交通モードの接続・乗換拠点（モビリティ・ハブ）が道路ネットワークに階層的に整備**され、自動運転バス・タクシー、小型モビリティ、シェアサイクル等のシームレスな利用が実現。
- 「生活道路は人が優先」という意識が国民に深く浸透することで、子供が遊べ、高齢者が散歩・休憩し、大人が立ち話をできるような道路空間を形成
- 通過車両を環状道路等に誘導・迂回させ、**まちの中心となる道路を人中心の空間として再生**。オープンカフェやイベントが催される楽しく、安全で、地域の誇りとなる道路空間が創出。
- 可変型の道路表示等を活用して**道路と沿道民地を一体的に運用**。曜日や時間帯に応じて、自動運転車の乗降スペース、移動型店舗スペース、オープンカフェ等に変化する**路側マネジメント**が普及 など

資料：2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～（R2.6.18）抜粋

従来の道路では、多様なニーズへの十分な対応が困難

## 「多様なニーズに応える道路空間」の実現に向けた課題

### 【多様なニーズに応える道路空間の考え方】

- 多様なニーズへの対応が想定される地域の特性、地域ごとに道路に求められる機能及び道路の機能分担の考え方が十分に整理されていない。

### 【多様なニーズに応える道路の構造・運用の課題】

- 路肩周辺に対する多様なニーズの集中に伴い、従来の考え方では対応が困難。
- 多様なニーズに対応するための構造や運用方法に曖昧な部分が多い。

### 【円滑な合意形成の進め方】

- 空間再構築では「地元との合意形成」や「関係機関との協議」が原因となり、事業の難航や実現に至らない場合が散見。

## 【論点1】

幹線道路ネットワーク等での通過交通の処理を前提とした地域での機能分担の考え方

- 多様なニーズへの対応が想定される地域
- 本検討会で扱う対象地域
- 各地域における機能分担

## 【論点2】

道路空間を柔軟に使い分ける考え方とその構造・運用のあり方

- 道路空間を柔軟に使い分ける対応方法
- 道路空間内での場所ごとのニーズへの対応例
- 道路空間を柔軟に使い分ける際の課題

## 【論点3】

関係者との合意形成の進め方

- 「つくる目線」だけではなく「つかう目線」を考慮した関係者との合意形成の進め方